

『甲府買物独案内』にみられる甲府の食文化 その1

Food culture of Kofu to be seen in “甲府買物独案内” part1

樋口千鶴、牧野美咲、六車睦美

Chizuru HIGUCHI, Misaki MAKINO, Mutumi MUGURUMA

1. はじめに

開府500年を迎えた甲府は江戸時代には徳川家の直轄地となり経済的にも発展していた。1704年(宝永元年)、五代将軍徳川綱吉からの信頼が厚かった柳沢吉保は、綱吉の特別な計らいによって甲府城主となり、一度も甲府入城はしなかったものの甲府城に大改築を命じ、甲府城とその城下町を整備した。

綱吉死去後、吉保は子の吉里に家督を譲り、吉里が城主として甲府入城するとさらに甲府城と共に城下町の整備が進められた。江戸との交流も多くなり、江戸の文化や繁栄が甲府に持ち込まれ、庶民の生活水準も向上したため城下町は賑わいを見せていた。その様子は「兜嶺雑記」において、「是ぞ甲府の花盛り」と記される程甲府の城下町は繁栄を極めた¹⁾²⁾。その時代の中で食文化の発展が伺える資料として『甲府買物独案内』(1854³⁾、1872⁴⁾がある(写真1)。買物案内には『江戸買物独案内』(1824)⁵⁾、大阪や京都で刊行された『商人買物独案内(浪花買物独案内)』(1820)⁶⁾、『商人買物独案内(京都買物独案内)』(1831)⁷⁾が見られるのみである。そこで『甲府買物独案内』から得られる当時の甲府の食事情を調査し、現在にも続く店舗状況を知ることにより甲府の食文化を理解する手だてになればと考え本調査を行った。今回は『甲府買物独案内』の概要と甲府の地理との関係について述べる。

2. 『甲府買物独案内』の概要

甲府買物独案内は江戸時代後期～明治時代前期に刊行された商人・職人の名鑑であり、買物ができる店舗や飲食店を知ることができるガイドブックである。縦10cm横19cm小さめの横本形態で、表紙の次頁にはその当時の町の様子が描かれ(写真1)、いろは順の目次とこの本の利便性を謳っている。商品や職種をいろは順に分類し(写真2)、住所や他店との識別のための屋号紋、その店一押しの商品名や詠えについての広告や看板図を載せ(写真3)、購入者の店舗選びに一役買っていたことがその後の増補版の出版からも伺える。特に食に関する掲載数は約1/4を占めていた。食文化の発展に伴い食の産業化、メディア化がみられる。

資料として用いたのは嘉永7年版と明治5年版である。明治5年版は店舗名の変化が見られるものもあるが特筆すべきは嘉永7年版には無かった割烹および仕出し屋などが追加されている(写真4)。また一部判読できないものもあった。写真はすべて明治5年版であり国立国会図書館デジタル資料のものである。

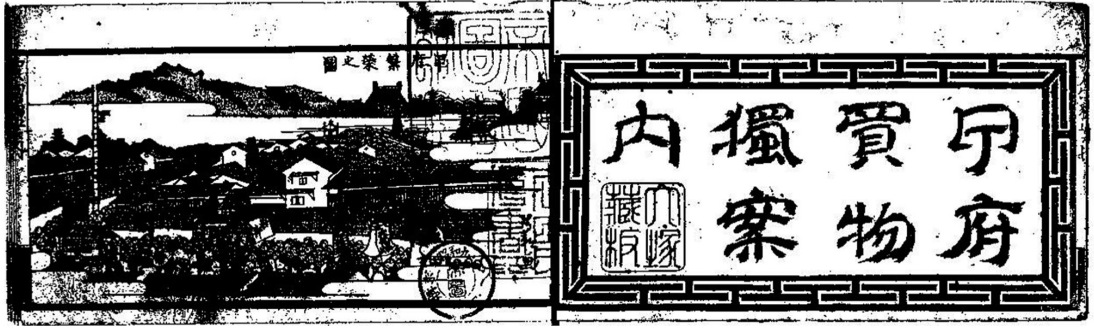


写真1 『甲府買物独案内』の表紙および町の風景図⁴⁾

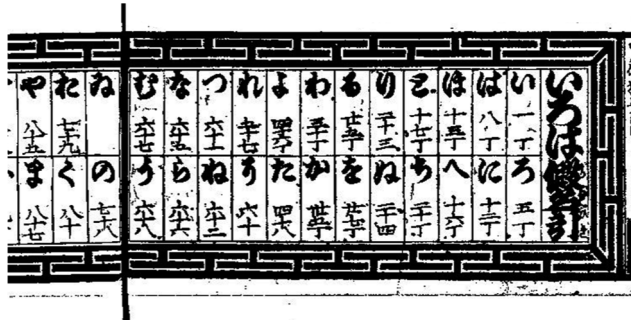


写真2 いろは順の目次⁴⁾

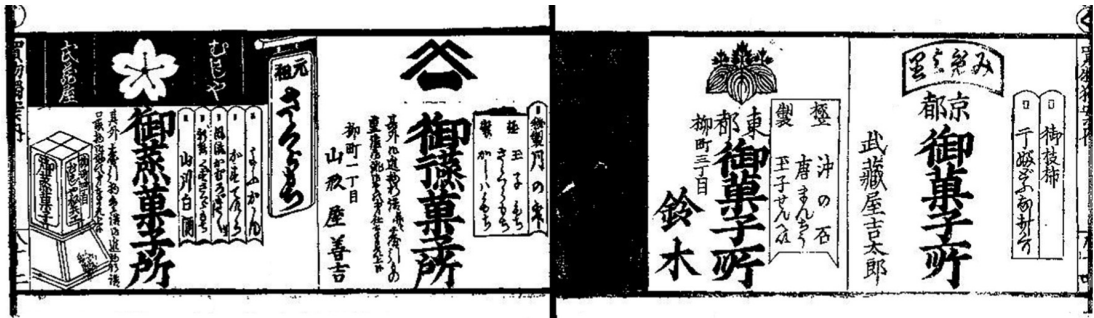


写真3 屋号紋、取扱商品名などの記載⁴⁾



写真4 明治5年版 料理屋の項⁴⁾

表1は食に関する店舗を一覧にまとめたものである。嘉永7年版は73店舗、明治5年版は96店舗の掲載がみられる。嘉永7年版の掲載内訳は、菓子関連（軽焼、金米糖含む）が17店舗、茶が14、酒12、乾物9、味噌・醤油・酢など調味料を取り扱う店舗が8、魚問屋と仲買が7店舗、砂糖3店舗他がみられた。明治5年版になると掲載店舗は菓子関連が30店舗と増え、嘉永版と同様に1番多い。菓子屋は写真の3からも伺え、通常主力商品2～4品を掲載しているが「軽焼」「金米糖」などは1品のみが掲載されていた。1品のみでも商売できるほどの人気商品であったと考える。次いでガイドブックの目玉であったであろう飲食部の仕出し・料理屋が16店舗であった。また、取扱商品が茶と砂糖など重複する店舗がみられ、乾物10、砂糖・酒・茶が9、味噌・醤油・酢と魚問屋と仲買が8店舗他であった。糍屋、素麺屋が店舗数は少ないが両年度版に登場している。糍は調味料づくりには不可欠と考えるが素麺のみ取り扱う店舗とはどういったものであったのか今後調査し

ていきたい。菓子屋がどちらも1番多いのは進物、土産物などとしての利用率が高いことを見込んでの掲載であったと考えられる。現在でもスイーツは人気商品である。18年の経過とともに甲府の繁栄が進み、食文化も発展したことから仕出し・料理屋が登場している。16店舗中、料理も出すが仕出しも行っているところが12店舗であった。このことから婚礼などの祝い事には仕出しを用いることが多くなってきていたといえる。これを裏付けるものとして明治初期に行われた長谷川家の婚礼関連の文献に関係記述が掲載されていた⁸⁾。

嘉永7年版に登場していた「大和屋幸蔵」など26店舗が明治5年版には見当たらなくなっていた。特に茶製品を扱う10店舗、乾物を扱う店舗が8と多くみられた。次いで酒、菓子類と続く。このことについては新たに登場した店舗の中で取扱商品や店名を見る限りでは親類またはのれん分けなどが考えられるので両年度版の関連を今後詳しく調べていきたい。

表1 『甲府買物独案内』に掲載されている食に関する店舗一覧

町名	嘉永7年(1854)		明治5年(1872)	
	店舗名	取扱商品など	店舗名	取扱商品など
青沼町	大和屋幸蔵	乾物	和泉屋庄助	乾物、鯉節
	田中屋仁兵衛	名酒	田中屋仁兵衛	名酒
	田中屋仁兵衛	味噌、酢、醤油	田中屋仁兵衛	味噌、酢、醤油
	伏見屋治七	御銘茶		
	松栄堂松野屋久右衛門	御銘茶		
西青沼町	鶴屋傳七	御菓子	喜久本	生蕎麦、仕出し
	栢田屋庄三郎	御菓子	父母野屋金造	御銘茶
			山口屋治良兵衛	舶来砂糖
			鶴屋傳七	御菓子
			栢田屋庄三郎	御菓子
		清月堂古川	御菓子	
飯田新町	松田家文治郎	名酒	松田家文治郎	名酒
一蓮寺町 *1	大黒屋喜太郎	名酒	春外軒河内屋大兵衛	御銘茶
	和泉屋重兵衛*1	御菓子	山本屋善吉	御菓子
	竹村彦八	御菓子	竹村彦八	御菓子
上一条町	澤屋傳兵衛	乾物	松屋利久	御菓子
下一条町			宅間啓助	乾物、鯉節
			幸手屋栄吉	金米糖、御掛物製
			米屋庄助	御種菓子
西一条町			桔梗屋一蔵	種菓子
魚町			松亭	御料理、寄合会席
	江草屋定助	糍	松鶴楼 井戸屋松兵衛	御料理、婚礼仕出し、寄合会席

	井戸屋元七	名酒	井戸屋元七	名酒
	村田屋七右エ門	和漢砂糖	村田屋七右エ門	和漢砂糖
	湊屋八良右エ門	魚問屋	湊屋八良右エ門	魚問屋
	盛田茂右エ門	魚問屋	盛田茂右エ門	魚問屋
	佐渡屋善兵衛	魚問屋	佐渡屋善兵衛	魚問屋
	濱松屋甚十郎	魚問屋	濱松屋甚十郎	魚問屋
	小田原屋弥七	魚仲買	小田原屋弥七	魚仲買
	松坂屋源右エ門	魚仲買	松坂屋源右エ門	魚仲買
	湊屋与八	魚仲買	湊屋与八	魚仲買
	松屋金兵衛	御菓子	松屋金兵衛	御菓子
			上総屋長右エ門	菓物
			江草屋定助	糍
大田町	明治時代に入り、一蓮寺町が改名*1		桔梗亭	御料理、鰻蒲焼、仕出し
			桔梗亭 吉藏	鰻蒲焼、料理仕立て
			大黒屋喜兵衛	乾物、和漢砂糖
			大黒屋勝兵衛	乾物、鰹節
			大黒屋喜太郎	名酒
			長崎屋佐平治	御飴、御菓子
			長崎屋与助	極製御菓子
		和泉屋重兵衛*1	御菓子	
遠光寺町	田澤屋宇兵衛	名酒	田澤屋宇兵衛	名酒
	田澤屋宇兵衛	味噌、酢、醤油	田澤屋宇兵衛	味噌、酢、醤油
	新屋文助	乾物		
荳町			黒駒屋佐兵衛	鰻蒲焼、茶漬け
堅近習町			松野庵幸吉	御料理、仕出し
			上九屋十郎兵エ	名酒
片羽町	大黒屋庄三郎	味噌、酢、醤油	大黒屋庄三郎	味噌、酢、醤油
	福島屋仁兵衛	御菓子		
金手町	丁子屋又右エ門	乾物	松風軒佐渡屋清八郎	御銘茶、和漢砂糖
上府中堅町	堺屋清兵衛	丸山軽焼	堺屋清兵衛	丸山軽焼
蔵田町	酒屋治良左エ門	名酒	酒屋治良左エ門	名酒
城屋町	暈屋弥兵衛	乾物	山形屋清兵衛	御菓子
			松風屋九兵衛	御菓子
	櫻屋儀右エ門	御菓子	櫻屋儀右エ門	御菓子
善光寺町			上野屋政兵衛	御菓子
土橋町			浜松屋才兵衛	鰻蒲焼、茶漬け
三日町	富士井屋平右エ門	糍	富士井屋平右エ門	糍
			大槌屋常七	御菓子
	春野屋忠兵衛	乾物	吉字屋勝藏	鰹節
緑町	斗拵屋忠七	素麩	斗拵屋忠七	素麩
	高野屋庄兵エ	名酒	高野屋庄兵エ	名酒
	高野屋庄兵エ	味噌、酢、醤油	高野屋庄兵エ	味噌、酢、醤油
	緑扇堂船橋	御菓子	緑扇堂船橋	御菓子
	柳橋庵	御菓子	柳橋庵	御菓子
	龜屋織江	金米糖製	龜屋織江	金米糖製
	宅間安助	乾物		
	勢竜軒伊勢屋惣助	御銘茶		
柳町	富士井屋栄助	名酒	奥村	生蕎麦、仕出し、酒、肴
	豊嶋屋乙兵衛	御蒸菓子	松田屋惣兵衛	生蕎麦、仕出し、酒、肴
	武蔵屋吉太郎	御菓子	三生軒 平右衛門	御茶漬、婚礼仕出し、椀焼

	登竜軒河内屋重助	御銘茶	梅芳徳兵衛	鰻蒲焼、茶漬け
	金升園河内屋栄兵衛	御銘茶	海老屋新七	御料理、仕出し
	堺屋伴七	御銘茶	藤屋吉郎右工門	乾物、鯉節、 和漢砂糖
			相模屋新兵衛	乾物、鯉節
	松坂屋伊助	乾物	松坂屋伊助	魚仲買、乾物
			川口屋清兵衛	乾物、和漢砂糖
			大黒屋茂兵衛	御銘茶
	十一屋忠藏	名酒	十一屋忠藏	名酒
	十一屋忠藏	醤油	十一屋忠藏	醤油
	上野屋甚藏*2	砂糖卸、売り	上野屋甚藏	砂糖卸、売り
	大黒屋権八	味噌、酢、醤油	大黒屋権八	味噌、酢、醤油
	大黒屋権八	名酒	豊嶋屋彦七	金米糖掛物
	鈴木	御菓子	鈴木	御菓子
			山形屋善吉	御菓子
	武蔵屋松兵衛	御蒸菓子	武蔵屋松兵衛	御菓子
山田町			若尾逸平	舶来砂糖
	盛田屋又兵衛	味噌、酢、醤油	森田屋又兵衛	味噌、酢、醤油
	和泉屋利右工門	御銘茶		
八日町	澤屋傳藏	乾物	播磨屋清兵衛	鰻蒲焼、茶漬け
	萬栄堂萬屋後太郎	御銘茶	柳屋弥吾右工門	乾物、砂糖
			長栄堂大黒屋吉右工門	御銘茶
	緑葉軒二文字屋忠藏	御銘茶	緑葉軒二文字屋忠藏	御銘茶
	如松軒若松屋平八	御銘茶	如松軒若松屋平八	御銘茶
	若松屋平八	和漢砂糖	若松屋平八	和漢砂糖
			柳屋弥吾右工門	舶来砂糖
	宅間平右工門*3	味噌、酢、醤油	宅間平右工門	味噌、酢、醤油
	宅間平右工門	名酒		
	牡丹亭金升	御菓子	牡丹亭金升	御菓子
	桔梗屋藤右工門	御菓子	桔梗屋藤右工門	御菓子
工町			錦 伊七	生蕎麦、仕出し、酒、 肴
連雀町	富士井屋太兵衛	名酒	鈴木元七	生蕎麦、仕出し
	茗撰堂河内屋長右工門	御銘茶	茗撰堂河内屋長右工門	御銘茶
	清葉軒茶屋吉右工門	御銘茶	清葉軒茶屋吉右工門	御銘茶
	雀舌軒網倉伊右衛門	御銘茶	松林軒 豊嶋屋音兵衛	国産菓子、 極製蒸練品
	茶林堂河内屋幸七	御銘茶		

* 1 町名の変更による：1店舗（和泉屋重兵衛）のみ住所変更，残り3店舗は旧町名のまま

* 2 2か所にて同食品の掲載あり

* 3 2か所にて異食品の掲載あり

3. 甲府の江戸時代後期の古地図と『甲府買物独案内』にみられるまち事情

嘉永2年（1849）の「懷宝 甲府絵図」⁹⁾加筆図（図1）によると、江戸時代甲府城の東部は碁盤状に道が整備されており、道路をはさんで町が区切られていた。南北にわたって配置した町は南北

に1丁目から2丁目となっており、東西に配置された町は、東西に1丁目、2丁目と区分された。現在も旧甲府城跡（現：舞鶴城公園）東部に延びる碁盤状の道は江戸時代のまま現存しており、正式な町名はほとんど変更となっているが自治会名や通りの名称に旧町名が名づけられ、今もその名を残している¹⁰⁾。

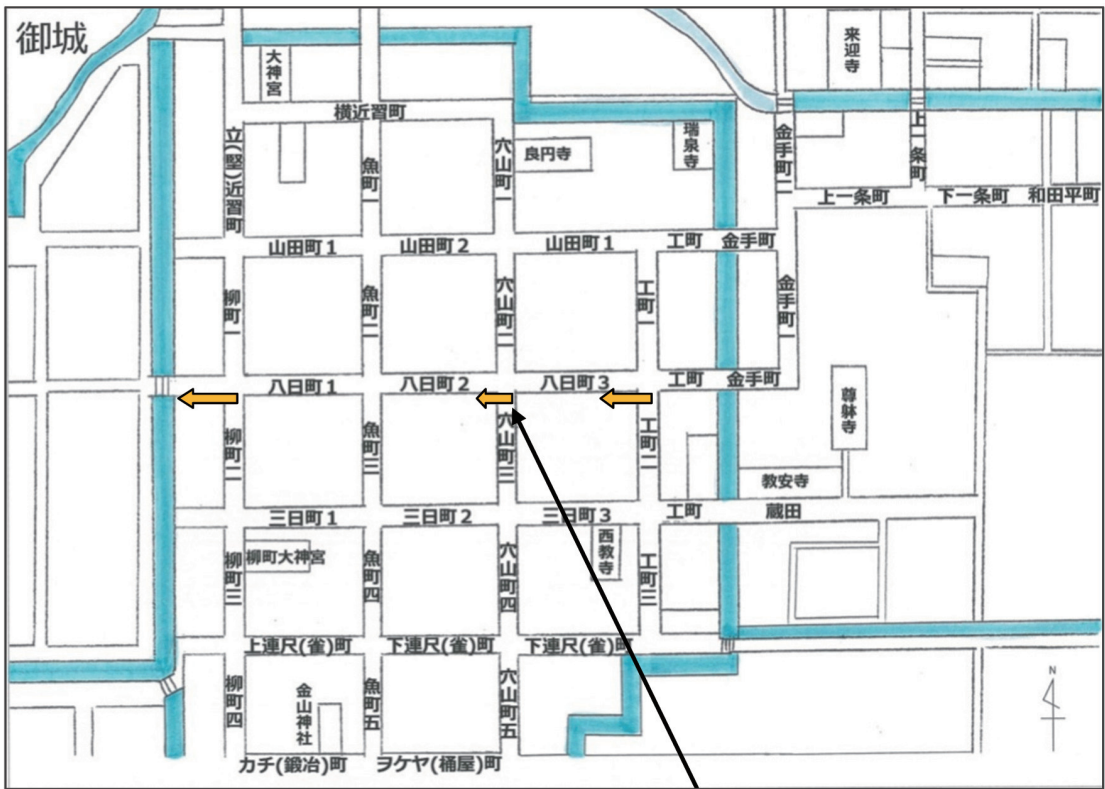
表1を町別に分類すると江戸時代では甲州府中

(現在の甲府)の城の東側である下府中が商人や職人の居住地であり経済の中心地であったこと、また甲州街道の宿場町であった柳町(現在の中央4丁目付近)の店舗が20店舗近くと一番多い。次いで多かったのが甲州街道沿いである八日町(現在の中央5丁目付近)であった。柳町・八日町は江戸時代ではお茶屋や菓子屋が多く見られたが、明治時代になると料理屋の名も多く掲載されている。魚町(現在の中央2丁目～5丁目)はその名の通り魚問屋が多く、小田原屋弥七は両年版とも掲載がみられる。「即席お料理仕出し」のチラシ

が存在し、事業の拡大を図っていたことがわかる¹¹⁾。土居外町(お堀の外側)南側には緑町、一蓮寺町があり、酒屋、菓子屋などの店舗が見られた。明治5年版になると一蓮寺町が大田町に改名したことから所在が変わらない店舗もあるが菓子屋の和泉屋重兵衛の所在が大田町に変わっていた。

この大田町に菓子屋や料理屋など8店舗が掲載されており、甲州街道沿い東側の下一条町や善光寺町にも菓子屋や料理屋が数店登場していることから商店街の発展が感じられた。

図1 江戸時代後期の甲府(「江戸時代後期の甲府街並み復元の試み」に加筆)



この堀外(土居外町)の南側に緑町, 一蓮寺町が存在。

甲州街道

4. まとめ

江戸時代後期から明治の初めの食に関する商店について『甲府買物独案内』に見られる店舗名や広告文を基に調べてみた。食に関する職種は菓子屋、御茶屋、酒屋、乾物屋、調味料を取扱う店、魚問屋・仲買などがあり、他職種の1/4程度も占めていた。両年度版とも菓子類を扱う店舗が多く、「軽焼」などの一菓子のみを取り扱う店が見られたことから当時の菓子事情が伺われた。18年間で城下町、宿場町を中心に料理屋の登場や菓子を取り扱う店舗が20%から30%に増加し、店舗の住所からそれ以外の地域にまで広がりを見せていることがわかり、甲府のまちの繁栄が伺える。今後は両年度版に掲載された商品や変化があった店舗などについて調べていきたい。また、現在も続いている店舗も見られたことからその店舗の状況や取扱商品に使用された食材などを調べて報告したい。

<参考文献>

- 1) 山梨県立博物館編集：柳沢吉保と甲府城（2011）
- 2) 中丸真治，楠裕次共著：甲府街史 山梨日日新聞社出版局（1995）
- 3) 山梨県立図書館：「甲府買物独案内」甲州文庫（1854）
- 4) 国立国会図書館：「甲府買物独案内」（1872）
- 5) 国立国会図書館：「江戸買物独案内」（1824）
- 6) 大阪市立図書館：「商人買物独案内(浪花買物独案内）」（1820）
- 7) 国立国会図書館：「商人買物独案内(京都買物独案内）」（1831）
- 8) 依田萬代，根津美智子，樋口千鶴：甲州 甲府盆地の婚礼献立の変遷 山梨学院短期大学
研究紀要 第32巻（2012）
- 9) 山梨県立博物館：「懷宝 甲府絵図」甲州文庫（1849）
- 10) 河西秀夫：江戸時代後期の甲府街並み復元の試み 現代ビジネス研究 山梨学院大学（2014）
- 11) 「まちミューの会」企画・編集：甲府市旧魚町編 つなぐNPOまちミュー友の会（2007）

